

Vol.71

さい帯血情報

米国「さい帯血協会(Cord Blood Association)」 設立ニュース

2014年6月に約150人が参加した‘さい帯血サミット’がサンフランシスコで開催され、大多数の賛同を得て「さい帯血協会(CBA)」が設立(2014年9月)されました。CBAの代表には、カルツバーグ先生(デューク大学)が就任しました。その諮問委員会(Advisory Committee)には、本分野を先導し活躍中の著名な人々が参加しています。

背景

健康管理提供者(医師、研究者等の医療従事者)・公的バンクおよび民間バンク・一般市民が本分野の発展のために一致協力し、直面する課題解決に取り組む初めての試みです。本分野を取り巻く現在の環境に積極的かつ発展的に対処する必要性から設立されました。

5つの重要目的

1. 主張(Advocacy) --- 政治・制度・規制への提言
2. 市場拡大(Market expansion) --- 保管サービスや細胞治療の提供
3. 高品質な製品とサービス(Quality products and services)
--- 規準や認定の促進
4. 教育(Education) --- 両親、ドナー、医療従事者、一般市民の啓発
5. 研究開発(Research and development)
--- 革新的な技術と治療法の推進

議会での証言

2015年6月にカルツバーグ先生が患者とCBAを代表し、「幹細胞による治療と研究の法制化(H.R.2820 Act of 2015)」促進のための議会証言を行いました。その中で、細胞治療および再生医療におけるさい帯血の可能性についても次のように言及されています。

「--さい帯血は難治性血液疾患に加え、細胞治療および再生医療に使用される大きな可能性があります。ウイルス疾患やある種のガン治療にさい帯血から作られたワクチンの臨床試験が始まっています。また、さい帯血は免疫システムの回復を促し自己免疫疾患の臨床試験も行われています。--脳障害の治療にもさい帯血の利用を試みています。6年前から低酸素性虚血脳症、脳性麻痺、難聴、自閉症にも自己のさい帯血を使用した試験を開始しています。これらの研究は、他に治療法もないという状況下で、有望な結果を示しています。」

当社の予定

当社もCBAの主旨に賛同し、来年よりCBAメンバーに参加するための申請を予定しています。これにより、さい帯血(造血幹細胞)および計画中のさい帯(間葉系幹細胞)処理プロセスと品質をグローバルな水準にしてゆくことを目指します。また、現在米国で実施されているさい帯血を利用した各種の臨床試験プロトコルの導入を図り、日本での臨床研究を一層推進してゆくことへの協力を目標としています。